

学会主催の思い出

第16回 会長 武 田 義 章

第16回日本胸部外科学会を大阪で開催することが、昭和37年仙台市で鈴木千賀志教授主催の下に開催された第15回日本胸部外科学会で決った。昭和38年10月は岡山で18、19の両日肺癌学会が開催されるので、胸部外科学会会員も多数参加して居られるとすると、岡山大阪間の移動に1日をあてて置くとよいと考え、10月21、22の両日を会期とした。

演題申込が多数であった為、4月に行われた日本医学会の様に、会期も会場も制限を受けないので、申込演題を全部発表して戴くことにした。当然会場を複数にせねばならぬので、A会場肺結核を中心とする研究、B会場肺癌を中心とする研究、C会場心臓及び大血管を中心とする研究と大別して3会場で発表して戴いた。

A会場で私が座長席に就いて定刻に開会した、暫くしてフロアの左後方に篠井金吾教授が悠々と入場して見えた。私は驚いた。それはB会場の最初の座長を篠井教授にお願いしてあるのに、その御本人がA会場に現れたのであるから、B会場はどうなっているだろうか。早速と教室員を篠井教授の席に走らせて、その旨を伝えた。

胸部外科学会創立当時の思い出

(大阪大学名誉教授)